

木曽川の産業に新風を

一宮市木曽川町地区の企業が大学、行政などと連携し、地域資源を掘り起こす「木曽川ルネッサンスプロジェクト」がこの秋、本格的に動き出した。種が特産のタマネギ

と地場産業の繊維を、各地のイベントに出展してPRしている。新たな商品開発や販路開拓も目指し、「木曽川町地区全体の経済の底上げを」と意気込む。(山田友美)

「ルネッサンス」始動

木曽川商工会に事務局を置き、今春設立した「木曽川産業クラスター創生協議会」がプロジェクトの母体となっている。

「ルネッサンス」の名前には「町の『古き良き』を掘り起こし、活性化を図る」この狙いを込めた。木曽川町地区はタマネギの種生産が国内で三分の一を占める。その種にならず、廃棄されるタマネギに着目したのは、同

狙う。

協議会の柴田和明会長は「従来、繊維業界は自社の技術の公表に消極的だった。アーカイブを作られたのは画期的だ」と期待する。既にアーカイブがきっかけとなり、プロジェクトに参加する繊維企業と工作機械メーカー、県尾張繊維技術センターが協力して、新素材「eテキスタイル」の開発が始まった。

木曽川町商工まつりにも出展する。木曽川町商工まつりは、関連企業が経営するレストランで食材として活用してミサンガも作ってもらつた。十一月十四日の木曽川町商工まつりにも

タマネギで菓子／繊維の技術 目録に



地場産業の繊維を活用した新事業について話し合う木曽川産業クラスター創生協議会メンバーら=一宮市木曽川町黒田の木曽川商工会館で